

「手を出してはいけない」

栗原市立瀬峰中学校 2年

高橋 未羽 さん

現代の社会ではさまざまな犯罪が起き、毎日のようにテレビなどで騒がれている。その中の一つに、薬物乱用がある。ニュースで乱用薬物について知り、私の身近にも危険が迫ってきているのではないかと、とても不安になった。

そんな時、学校で薬物防止についての講話を聞く機会があり、改めて乱用薬物について知ることができた。

薬物は心身にさまざまな悪影響を及ぼし、そのことによって日常生活を送ることさえも困難になってしまう。

薬物を使う度に、脳、呼吸器、消化器、心臓など、大切な器官が傷ついていく。一度使っただけで、命を落とすこともあるという。

自分をコントロールできなくなり、家族や周囲の人に暴力をふるったり、ものを破壊したり。さまざまな幻覚症状から犯罪に至る場合もあるそうだ。さらに、薬物には依存症があり、また使いたいという気持ちでやめることができなくなってしまうのだ。

また、無気力、無感動にさえなってしまう。幻覚や幻聴、被害妄想や人間不信で暴力的、攻撃的になり、本当の自分は姿を消してしまう。もとの自分に戻ることができなくなってしまうのだ。

一瞬でその人の人生を狂わせ、家族までも不幸のどん底に突き落とす。本当に恐ろしいものだ。自分自身を傷つけるだけでなく、家庭や学校、地域社会にまで悪影響を与えることが、この薬の最も怖いところだ。なぜこんな薬が存在するのだろうか。

そして、そんな恐ろしい薬物なのに、手を出す人は少なくない。好奇心や悩み、ストレスなどが原因になっているという。そんな心理状態の時に、悪の手は待っている。気分が楽になるなどの理由で「一回だけなら大丈夫だろう」という甘い気持ちが最も危険なのだ。

今はMDMAなど、簡単に飲むことのできる覚醒剤が増えているそうだ。親しげに話しかけ、誘ってくる。そんな甘い言葉に注意し、強い意志を持つことが大切だと思う。

好奇心や面白半分で薬物に手を染めてしまうことのないように、薬物の実態や害について、正しく理解することが必要だと思う。

そして、もう一つ、自分を大切にすることを忘れずにいたい。辛い出来事があったり、悩みや不安、不満があったりすることから薬物に逃げてしまう人もいる。しかし、それは決して解決にはならないのだ。薬物一つを手にしたことで、全ての「未来」や「可能性」が奪われることを忘れてはならない。薬物に頼らず、自分自身で解決できたときこそ、喜びが生まれ、自信となり、強くなれるはずだ。

薬物乱用によって苦しむ人や、それによって起こる犯罪が少しずつでも減っていき、やがて、この社会から薬物がなくなることを心から願っている。